

半促成ピーマンにおける 天敵を主体とした防除体系

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

ピーマン栽培においてタバココナジラミ バイオタイプQの被害が拡大しており、特に天敵を利用したピーマン栽培では大きな問題となっています。そこで、半促成ピーマン(12月下旬定植)において天敵による主要害虫の防除法を現地圃場で検討したところ、タバココナジラミ等の天敵スワルスキーカブリダニを定植3週間後に放飼し、アザミウマ類の天敵タイリクヒメハナカメムシなどを併用することにより、体系的に防除できることが明らかとなりました。

スワルスキーカブリダニのタバココナジラミに対する防除効果

12月下旬定植の半促成ピーマンでは、タバココナジラミは3月中旬頃から増加します。スワルスキーカブリダニは花粉だけでも発育できることから、定植3週間後に放飼してタバココナジラミが増加する3月中旬までに予め増殖させることにより、タバココナジラミに対する防除効果が得られます。

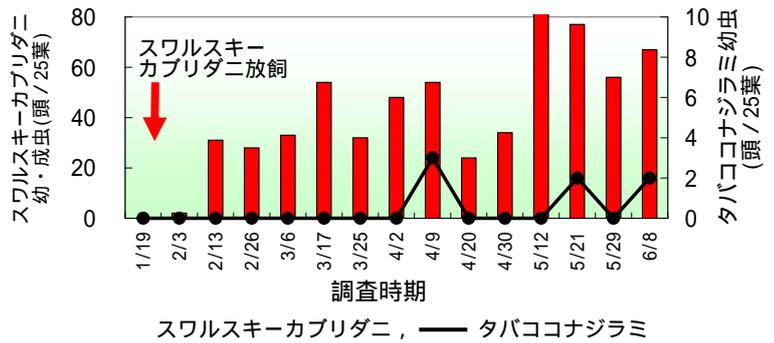


図1 半促成ピーマンにおけるタバココナジラミに対するスワルスキーカブリダニの防除効果

タイリクヒメハナカメムシのアザミウマ類に対する防除効果

半促成ピーマンでは、優占種であるヒラズハナアザミウマは2月下旬頃から発生します。タイリクヒメハナカメムシは花粉だけでも発育できることから、タイリクヒメハナカメムシを定植3週間後に放飼して予め増殖させることにより、アザミウマ類に対する防除効果が得られます。

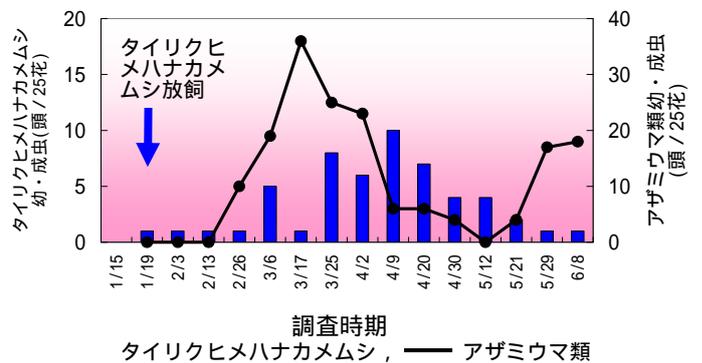


図2 半促成ピーマンにおけるアザミウマ類に対するタイリクヒメハナカメムシの防除効果

半促成ピーマンにおける天敵主体の防除体系

スワルスキーカブリダニおよびタイリクヒメハナカメムシを生育初期に放飼して花粉を餌として増殖させ、その後、アブラムシ類やハダニ類の発生初期に、コレマンアブラバチやミヤコカブリダニ等を放飼することにより、これらの害虫を防除することができます。

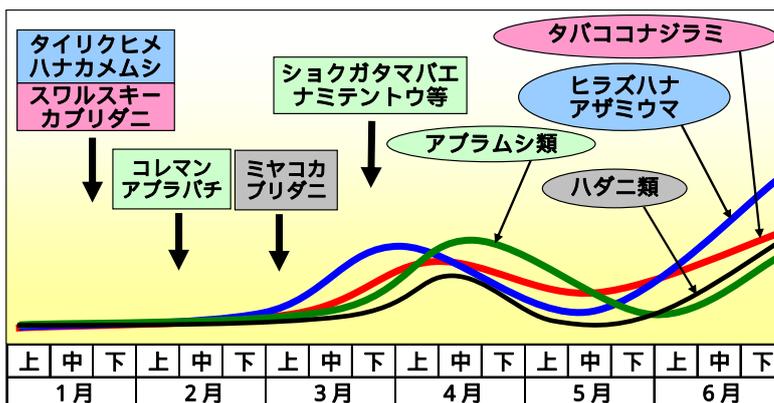


図3 半促成ピーマンにおける天敵を主体とした防除体系の模式図